留学生通信

夢の道　―日本での留学生活―

The Dream's Road ―Study Abroad Life in Japan―

ピヤポン・ウォンワイウィット
Piyapong Wongwaiwit
■2009 年タイ・チュラロンコン大学工学部国際工学校自動車生産設計工学科卒業，2010 年東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻博士前期課程入学
■主として行っている研究
・座席の振動を利用した触覚的衝突防止警報システムの開発
■通学先
東京農工大学　大学院工学府機械システム工学専攻　ポンサトーン研究室
（〒184-8588　東京都小金井市中町 2-24-16
／E-mail：50010643245@st.tuat.ac.jp）

1　母国のタイについて

私の母国は東南アジアの中央に位置するタイである（**図 1**）．タイの面積は約 51 万 km^2 で世界第 50 位であり，人口は約 6 400 万で世界第 21 位である．全国民のうち 94.7%を仏教徒が占めている（4.6%はイスラム，0.7%はほかの宗教）．国語はタイ語である．

昔からタイは農業国であり，毎年 650 万 t の米を輸出する世界第 1 位の米の輸出国になっている．米ばかりでなく，織物，水産品，ゴム，宝飾品，自動車製品，コンピュータ，電気製品なども大切な輸出品である．タイは 1985 年から 1995 年まで急速な経済成長をとげたが，その理由の一つは観光産業の発展にある．タイの観光産業が経済成長の大きな要因になった理由は，海も山も島もあり，さらに，古都アユタヤや賑やかなバンコクなどの観光地が多いことによる（**図 2**）．実際に，統計によると 2004 年には 1 174 万人の旅行者がタイを訪れた．そのうちの 57%はアジアからで，10%は日本人である．

タイの教育制度は日本と同様に，小学校 6 年，中学校 3 年，高校 3 年であり，ここまで政府が払う．そして，いろいろな大学があり，入学から卒業までは専門によって違うが，だいたいは 4 年で卒業できる．

2　日本でのインターンシップ

日本に留学する前に，私は「なぜ日本なの？」，「どうして他の国ではないの？」という質問をよくされた．

タイはさまざまな日本の文化の影響を受けてきたが，私も例外ではなく，子供のころからアニメやコミック，ドラマ，ゲーム等を通して日本のことを知るようになり，日本が好きになった．それで，日本語の勉強を始め，日本のことを学び続けてきた．

図 1　タイと周辺の国々

そして，大学 3 年生のときチャンスに恵まれた．私の学んでいるチュラーロンコーン大学は日本の東京農工大学と特別なインターンシッププログラムを行うことになったのだ．すぐに私はこのプログラムに申し込み，面接を受けて合格し，ほかのタイの大学生 5 人と一緒に日本に留学できた（**図 3**）．このプログラムは 10 週間しかなく，短い期間だったが，とても有意義な経験ができた．専門の機械工学の勉強ができたことはもちろんだが，一番役に立ったことはどうやって自分の学力を現実の場で使用するかを学んだことである．教育の面ばかりではなく，日本の文化や生活や大学生活も経験できた．インターンシップのときに，私は研究室に入り，大学院生の先輩たちの研究を手伝った．一番びっくりしたことは，日本の大学はタイと違って，研究室のメンバはみんな自分の仕事があることと，グループプロジェクトで

図 2　アユタヤ

図 3　2007 年の特別なインターンシッププログラムのゼミの様子

図 4　アジア人財の留学生時代の様子

図 5　東京農工大学でのアジア人財プログラム生のための日本語特別コースの様子

はなくても問題や頼まれたことがあったらみんなで手伝うことだ．研究室のメンバは日本人の学生だけではなく，私たち外国の留学生も手伝ってくれた．そのうえ，私たち留学生も研究室の旅行に行くことができたのにも，びっくりした．私は日本では上下関係が重要だから，先生と学生が一緒に飲み会をすることはありえないとずっと思っていたが，それは違っていた．研究室の学生だけではなく，先生とともに素晴らしい旅行ができたのだ．

インターンシップでは，機械システム工学専攻の永井・ポンサトーン研究室で自動車事故を防ぐ技術の開発の研究を実施した．研究の内容を簡単に説明すると，仮想走行環境を再現するドライビングシミュレータを用いて運転者が運転に集中している場合と集中していない場合を比較し，注意レベルをリアルタイムに推定するアルゴリズムを開発する研究である．将来的には，注意レベルが低下していると判定された場合には，安全運転の状態に戻るように警告音，音声等の運転支援を作動させることによって自動車交通事故を未然に防ぐことができると考える．

このインターンシッププログラムのあとで，私はこの素晴らしい文化を持つ日本がさらに好きになり，いつか日本の一つの部分になりたいと思うようになった．それで，タイに帰った後で，一所懸命日本語も大学の勉強も頑張り，その結果日本にもう一度留学することができた．

3　アジア人財プログラムの留学生

現在，私はアジア人財プログラムの研究生として東京農工大学で勉強している（**図 4**）．そして，この 4 月から修士課程の大学院生として学んでいる．

このプログラムは「先端ものつくり IT エンジニア育成プログラム」と呼ばれ，大学院工学府で，専門科目や工学科目を勉強し，研究を行うものである．また，プログラムの間に日本の会社で研修することも含まれ，卒業した後，日本で就職することになっている．

私は 2009 年の初めに，このプログラムのことを知り，申し込んで合格した．そして，2 カ月間母国で日本語の予備的なコースを受けたあと，2009 年 10 月に来日した．日本に来てから，また半年間東京農工大学で日本語の特別コースを受けた（**図 5**）．その半年の間に，研究生として研究室に所属し，修士課程の勉強に必要なことを学び，大学の入学試験も受けなければならなかった．そして，半年間が終わった後で，普通の大学院生と同じように，修士課程に入り，大学院生活の 2 年間が始まった．

まだ 6 カ月間しか日本で生活していないが，日本の生活には慣れてきたと思う．外国で生活することは決して難しいことではなく，外国人の友人もたくさんできるし，ほかの国の文化も学ぶことができる．何か問題が起こっても，日本人の友も外国人の友も同じ国の友もいるから，あまり不安はないと思う．私はいつまで日本にいるかまだはっきりわからないが，これからも一所懸命勉強し，研究も生活も頑張りたいと思っている．